名高同窓会報

発行所
名寄市徳田204番地1
北海道名寄高等学校同窓会
事務局 TEL 01654-3-6842
FAX 01654-3-6841
発行人 会長 梅野 博
(名高16期)
印刷所 (株) 北方印刷所

教育活動のさらなる充実に向けて

北海道名寄高等学校長
佐賀 聡

名寄高等学校同窓会には、日頃から本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力、さらには多大なるご支援を賜り心から感謝申し上げます。

今年度学校は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、臨時休業、入学式の規模縮小、高体連・高野連・高文連の大会やコンクールの中止及び独自大会の実施、学校祭や体育祭及び宿泊研修の中止等、様々な教育活動が通常どおりにできなくなりました。このような中でも、生徒たちは困難な状況を乗り越えようと、前を向き、必死に頑張っています。

現在、学校は、全日制普通科10クラス（1年生：94名・3クラス、2年生：98名・3クラス、3年生：132名・4クラス）全校生徒324名の規模です。生徒数が年々減少傾向にあることから、学校でも生徒増に向けた取組を行っていますが、成果としてあらわれていないのが現状です。今年度、新たな取組として、「魅力アップ会議」を立ち上げ、育成したい資質・能力、名高らしさなどについて定期的に対話を重ね、魅力づくりを進めています。このような取組を進める中、本校同窓生4名が中心となり「名寄の高校の魅力を発信する市民サポーターの会」を立ち上げてくださり、学校案内の作成や地域広報誌及びSNSなどで本校の魅力について情報発信をしていただいています。母校に対する「熱い思い」とご尽力に、校長として心より感謝するとともに、心強く感じているところです。

生徒の近況について、卒業生の進路は、国公立大学に22名の合格者を出し、うち2名が北海道大学に合格、13年ぶりに防衛大学への合格者も出しました。「道北の進学校」としてのステータスを守ることができたと考えています。最近の特徴として、公務員希望者が増加していましたが、この春の卒業生は、大学進学者が増加し延べ150名の合格者（合格者割合～H29：114.2%、H30：80.0%、R1：144.2%）を出しました。

部活動は、新聞局が全国高校総合文化祭に19年連続20回目の出場（今年度はWeb開催）を果たし、「第24回全国高校新聞年間紙面審査」において、優良賞を受賞しました。その他の部の大会は残念ながら中止や開催方法の変更（Web開催等）、各競技団体主催の独自大会の開催等となりましたが、各部員が日頃の練習の成果を発揮し活躍しました。

学校行事は、名高祭の中止により、名物の行灯行列ができなくなり、先輩から受け継がれてきた行灯の作製ができず、来年度以降に不安が残ります。来年度実施が可能な状況になれば、同窓生の皆様のお力添えをいただき、名高伝統行事を引き継いでまいりたいと考えています。

これからの時代は、人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0が到来しつつあり、社会の在り方そのものが現在とは「非連続」と言えるほど劇的に変わるとされています。

このように急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。具体的には、文章の意味を正確に理解する読解力、教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力などが挙げられます。本校では、授業、学校行事、部活動等全ての教育活動をとおして、その資質・能力の向上に努めていますが、さらに充実した教育活動を推進し、生徒たちに未来に生きる力を育成することが重要と考えています。今後も、「チーム名高」として教職員が一体感をもって全力で取り組んでまいります。

令和4年度（2022年度）には、創立100周年を迎えることになります。6月に準備委員会を立ち上げ、記念事業の内容及び今後の準備日程等について確認いたしました。今後も同窓会の皆様と力を合わせて準備を進めてまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

終わりになりますが、名寄高等学校同窓会の益々のご発展と同窓生の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

名高30期同期会

昭和の時代に生まれ、激動の平成を過ごし、新しい令和の時代を迎えた我々名高３０期生も、どうにか還暦の年を迎えることができました。それを機に、各方面から、「同期会をやらないのか」という声が聞こえ、市内在住の３０期生たちが同期会の開催に向け実行委員会を立ち上げました。およそ１年前から計５回の幹事会を行い準備を進めてきました。担任の先生と在学中、皆ながお世話になった三木佳子先生にも声をかけようということになり、早速連絡したところ、担任の先生方４人については皆さん高齢や体調不良ということで出席が叶わず残念な思いでしたが、私たちが入学した昭和５０年に名高に赴任した三木先生は出席していただけるとのお返事をいただきました。連絡が取れる約１３０名に案内状を出し、最終的に５３名の同級生の参加を得ました。残念だったのは、前日からの台風で羽田空港からの飛行機が欠航となり、佐藤千博君、渡辺昌弘君、栗原真行君、遠山紀伸君の４名が参加できなくなったことです。それに対し、紙一重で参加できたのが当日唯一飛んだ羽田発旭川行きの始発便を予約していた大江敏雄君です。彼の運の強さには脱帽です。

令和元年１０月１２日（土）、名寄市の「グランドホテル藤花」において同期会が開催されました。会に先立ち、名高の校舎見学（我らの時代とは違う新校舎ではありますが）も企画し、10数名が参加してくれました。午後６時、記念の集合写真を撮影してから、林雅裕君の総合司会で開会。実行委員長である中村勝巳君の挨拶、前出の大江君の乾杯の発声で宴がスタート。多少の歓談後、高校時代のＤＶＤの上映。恩師である三木先生からの挨拶。赴任と入学が同じ年という我らの学年への特別な思いには驚かされました。その後、三井一敏君から三木先生へ花束の贈呈。ステージ上での参加者の近況報告、と会は進んでいきました。アルコールが進むにつれて昔話にも花が咲き、皆高校時代にタイムスリップしたような雰囲気でした。そんなこんなで、予定されていた２時間もあっという間に経過し、太屋岡幸恵さん（旧姓宮本）の締めの乾杯の発声で会が終了しました。その後の２次会ですが、当初の予定では参加できないといっていた同級生も、１次会の勢いで急遽参加するということになり、結局１名が参加できないだけという盛況ぶりでした。その後３次会、４次会と続き、全てがお開きになったのが午前３時頃という有様でした。

名高を卒業して４２年。同級生たちはそれぞれの土地で、それぞれの立場で活躍していると思います。同期会の開催に向けて準備等、色々大変なこともありましたが、懐かしい同級生の顔を見ることもできたし話をすることもできました。そして何より、皆んなからパワーを貰うことができたので、開催して良かったなと個人的には思っています。我々も６０才を迎えましたが、まだまだ老け込む年ではありません。今後も仕事を続けるという同級生もたくさんいました。次の開催の確認はできませんでしたが、その日が来るまでお互い健康に注しながら生活していければと思っています。名寄高校と名高３０期生の皆さんの益々のご活躍とご健勝を心から祈っています。

（実行委員　丸山　功）

北海道名寄高等学校　第30期同期会　令和元年(2019)10月12日 於:グランドホテル藤花

小説家 村上利雄さんを偲んで

村上さんは昭和二十九年三月の卒業生で、私の二期先輩である。彼は、私の知る限り名寄高校卒業生で初の小説家であり、道央では名の知れた作家であった。ＪＲ車内誌に随筆を書いている小桧山博氏と親しく、無二の筆友であったし、渡辺淳一氏とも交流があった。そんな村上さんが、残念ながら、昨年十一月十日に他界された。入院してから僅か十日余りの急逝で、血栓による多臓器不全が死因だった。八十四才でした。心からご冥福をお祈りするものです。

村上利雄さんは、美深生まれの名寄育ちです。それは一家が美深から名寄に出て、中心街（西二南七）で洋品店を営んでいたからです。しかし、店は卒業の年の春、経営不振により閉店。利雄さんは卒業するや直ちに教員として利尻町赴任することになりました。利尻で五年、恵庭で五年の教員生活の後、恵庭在住の父親の懇請により父が経営していた不動産業を継ぎ、バッティングセンターも含めて、亡くなる数年前まで敏腕を振るいました。そんな多忙な稼業を持ちながら、若い時からの夢であった小説家を目指して、教員時代も、また、事業経営の時も、並行して、こつこつと小説や随筆を書き続けたのでした。

随筆のデビューは、名高三年の四月で、北海タイムスのコラム欄「女性の窓」にペンネームで「羽根の押し売り」（六百字）を投稿したのが始まりでした。その後、教員時代（昭和三十年代）は小説に鋭意取り組み、短編を五作、「赤のラプソディ」、「石手台風」、「下宿部屋」、「黒いスポットライト」、「死刑囚十七号」を発表し、昭和三十九年の晩秋にこれらが一冊にまとめられ、初めて、単行本として出版されました。十年に一冊は単行本にして出したいという村上さんの念願はぎりぎり達成されたのです。昭和四十二年には「脚を待つ男」を「新潮」十二月号に発表していますが、これは昭和五十六年に優秀作として「北海道文学全集」第二十一巻に収録されました。昭和五十五年には、五か月余りの期間、苫小牧民報と千歳民報に連載で、「盤尻渓谷」と「雪虫の愛」が掲載されています。さらに昭和六十一年には、短編六話をまとめて、「鈴石峠」が出版されましたが、鈴石峠の舞台は名寄と札幌になっています。余談ですが、これを読むと鈴石のことがよく分かります。名寄育ちらしく、村上さんが丹念に調べ上げたからです。小説は、この他に「猫物語」、「シベリアラーゲリ」、「永遠の愛」、「幻日」など九作品がまだあります。

次に、北海道新聞の文芸欄に掲載された創作や随筆に触れておきます。昭和四十年、四十一年の二年の間に、道新の「サラリーマン読本」として世相を反映した創作（原稿用紙五枚分）が三十二回掲載され、昭和六十三年から平成二十六年までは同じく道新の「木もれ日」および「せせらぎ」のエッセイ（六百字）として百九編が掲載されています。この他にも苫小牧民報や千歳民報には季節の折に触れ、随筆が掲載され、恵庭市民文芸にも毎号、作品を発表しています。稼業がありながら、よくもまあ、こんなに書いたものだと敬服せざるを得ません。

作品は、若い時は、社会批判的なブラックユーモアに味付けされた作品が目につきますが、次第に変化して、マイナスを背負った女性を主人公にして、優しくみつめながら、どう救済しようかと作者自身が悩んでいます。五十も半ばを過ぎる頃からは、エッセイが多くなりますが、人々や家族を優しい眼差しで見詰め、慈しむような作品が多くなり、頬が緩み、ほろりとする場面に私は幾度となくぶつかりました。私は「背筋伸ばして」（平成二十六年三月発刊）の中の随筆が好きですが、これは前述の道新や苫小牧・千歳民報に掲載された随筆、百二十七編をまとめたもので、村上さんの生涯が反映されています。それだけに村上さん自身の思いも強く、一冊の本に纏め置きたかったのでしょう。

昭和五十五年の夏だと思うのですが、名高ＰＴＡの事業で、村上さんに名高に来て「全校生徒に何かお話しをして欲しい」と講演を依頼したことがあります。快く引き受けてくれました。講演内容の全体は、もうよく覚えておりませんが、「人生は厳しいが故に希望を抱いて生き、何よりも今を大切に懸命に前進して欲しい」と高校時代の弁論部上りの情熱的な口調で語っていたのは今も覚えています。村上さんに面識を得たのはこの時が初めてで、以来、本が出版される度、恵存と書き添えられた本のご恵送に預かりました。

村上さんは故郷名寄が懐かしくもあり、恋しくもあり、随筆のネタによく名寄が出てきます。母校では、文芸の影響を受けた小池榮寿先生や潮見清先生のこと、ユニークなニックネームがついた先生、ライオン、ベア、ロングさん、そして六期生の面々、市内の景色では、大通り教会や名寄側の旧旭東堰堤（農家遠藤宅前三叉路辺り）の水泳場でカラス貝を焼いて食べたことなどです。皆さんはご存じでしょうか。そこが昭和三十二、三年頃まで水泳場に指定されていたことを。

郷土の文芸誌が無かった恵庭市にあって、村上さんは期待されて、恵庭市民文芸の会の立ち上げに参画し、昭和五十年に会を発足させ、以来、文芸誌の毎年の発行、後年には毎年臨時増刊号を発行して今日に至っています。会では、文芸誌の編集委員長や会長を永年務め、文学愛好者のリーダーとして活躍してきましたが、中でも三十年以上も継続実施してきた「文学散歩」は道内関係者から高く評価されています。そんな村上さんですから、恵庭市にあって市の公職や特養施設の理事長職もあり、本当に多忙でした。

平成十六年に恵庭市文化賞、平成二十七年に北海道社会貢献賞を受賞しています。

晩年は一人暮らしでした。利尻町出身の奥様を平成二十四年九月に亡くしているからです。子供さんたちは、立派に成長され、長女が札幌に、長男が福島にいます。仲が良く、協力し合う親子でした。今、村上さんは千歳市の極楽寺に眠っています。

令和二年七月三十一日　名寄高校八期生
（昭和三十一年三月卒業）石川孝雄　記

令和元年度 協賛商社一覧　敬称略順不同

青野海産物販売店
定木孝市朗税理士事務所
株式会社 黒川商店
東洋製麺
北星信用金庫
(株)丸徳 木賀商店
宮崎靴スポーツ店
吉川印刷株式会社
スタジオ稲場
喜信堂
松前陶器店
有限会社 喜多印刷所
株式会社 坂下組
(有)靴スポーツの すま
株式会社 清水金物店
グランドホテル藤花
柴田時計眼鏡店
株式会社 名文堂
森実商店
梅野博・新事務所
北昭産業株式会社
株式会社 ダスキン滝沢
株式会社 グリーン薬局
株式会社 緑や
かまくん本舗 えびす食品株式会社
有限会社ラヂェーター田中
川瀬鍼灸整骨院
有限会社 丸萬
有限会社 クロスオート
株式会社 志水商店
オーセンティックバー　ディキシー
株式会社 道北テント
ゲオ名寄店ブックスレインボー
名寄自動車学校
名士バス株式会社
株式会社北方印刷所
(株)振興公社 なよろ温泉サンピラー
なよろ菓子工房ブラジル
株式会社小田桐商店
中館建設株式会社
ＢＡＫＥＲＹ ＩＳＨＩＤＡ
Military Shop nayoro camp

■ 令和元年度卒業生 進路別合格者数（延べ数）■

北海道名寄高等学校　進路指導部

区分	学校名	合格者数 男	女	過年度	合計
国公立大学	北海道大学	1	1		2
	小樽商科大学	1			1
	北海道教育大学旭川校		1		1
	北海道教育大学札幌校		1		1
	北海道教育大学釧路校	1			1
	北海道教育大学函館校		1		1
	札幌医科大学		1		1
	北見工業大学		1		1
	名寄市立大学	2	1		3
	釧路公立大学	1			1
	公立千歳科学技術大学	1			1
	弘前大学	1			1
	青森県立保健大学	1			1
	岩手大学	2			2
	金沢大学		1		1
	都留文科大学		2		2
	静岡県立大学	1			1
	高崎経済大学			1	1
	小計	12	10	1	23
道内私立大学	北海学園大学	17	7		24
	北星学園大学	13	2		15
	札幌学院大学	7	5		12
	札幌国際大学	2			2
	札幌大学	5	6		11
	札幌保健医療大学		1		1
	星槎道都大学		1		1
	天使大学	1			1
	日本赤十字北海道看護大学		1		1
	藤女子大学		6		6
	北翔大学	1	1		2
	北海商科大学		1		1
	北海道医療大学	11	3		14
	北海道科学大学	16	1		17
	北海道情報大学	3			3
	北海道千歳リハビリテーション大学	1	1		2
	北海道文教大学	5	5		10
	小計	82	41	0	123
道外私立大学	千葉科学大学	2			2
	神田外語大学	2			2
	桜美林大学	1			1
	成蹊大学		2		2
	大東文化大学	1			1
	拓殖大学	1			1
	東京工科大学	3			3
	獨協大学	1			1
	法政大学		1		1
	神奈川大学	1			1
	神奈川工科大学	4			4
	横浜美術大学	1			1
	愛知学院大学	1			1
	名古屋学院大学	1			1
	奈良大学	1			1
	大阪芸術大学	2			2
	神戸松蔭女子学院大学		2		2
	小計	22	5	0	27
国公立短大	小計	0	0	0	0

区分	学校名	合格者数 男	女	過年度	合計
私立短大	旭川大学短期大学部	1	2		3
	札幌大谷大学短期大学部		1		1
	北翔大学短期大学部		2		2
	北海道武蔵女子短期大学		2		2
	小計	1	7	0	8
看護系学校	北海道立旭川高等看護学院		3		3
	北海道立紋別高等看護学院		3		3
	深川市立高等看護学院		2		2
	滝川市立高等看護学院		3		3
	富良野看護専門学校		1		1
	苫小牧看護専門学校		1		1
	旭川厚生看護専門学校		1		1
	小計	0	14	0	14
専修学校	旭川福祉専門学校	1			1
	経専調理製菓専門学校		1		1
	経専北海道保育専門学校		1		1
	札幌医学技術福祉専門学校		1		1
	札幌ビューティーアート専門学校		1		1
	日本航空専門学校	1			1
	北海道エコ・動物自然専門学校	1			1
	北海道情報専門学校	2			2
	北海道中央調理技術専門学校	1			1
	北海道どうぶつ医療専門学校		1		1
	北海道農業協同組合学校JAカレッジ	1			1
	吉田学園医療歯科専門学校	1	1		2
	吉田学園情報ビジネス専門学校	1			1
	専門学校エビスビューティーカレッジ		1		1
	専門学校日本ホテルスクール		1		1
	文化服装学院		1		1
	大阪テーマパーク・ダンス専門学校		1		1
	小計	9	10	0	19
大学校等	防衛大学校	1			1
	小計	1	0	0	1
公務員・民間就職	国家公務員		1		1
	北海道行政職員	1	1		2
	公立小中学校事務職員	1			1
	北海道警察	1	1		2
	名寄市職員	1	1		2
	歌志内市職員	1			1
	美深町職員	3			3
	当別町職員	1			1
	音威子府村職員	1			1
	自衛隊	4	2		6
	道北なよろ農業協同組合		1		1
	株式会社 もちの里ふうれん特産館		1		1
	士別地区森林組合	1			1
	小計	15	8	0	23

※令和2年4月1日(水)現在

同窓会報第54号の原稿募集

令和三年十月発行予定の同窓会報54号の原稿と広告を募集しています。会報の掲載内容は、同窓会各員や各支部地区役員の原稿、同窓生個人の原稿、旧職員の原稿、支部だより、同期会だより、同窓生の活躍状況などがあります。寄稿先は事務局（〒096−0071 名寄市字徳田204 名寄高校同窓会事務局 TEL 01654−3−6841 名寄高校 佐々木）までご連絡ください。原稿は各自のパソコンで作られたものでも、手書きでもかまいません。写真は使用後に返却いたします。今後も、同期会だよりや同窓生の活躍状況などを積極的に掲載させていただこうと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

後書

今年も同窓会報の発行にあたり、多くの方々の寄稿を賜りました。今後、若い世代の同期会開催の報告や総会・懇親会への参加を願っております。多くのご協力、本当にありがとうございました。